日刊 動労千葉
87. 6. 30
No. 2589
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

西日本（金沢・松任工場）で『手抜き』作業を指示

☆☆☆☆☆☆☆☆☆

腐食がひどく作業延長

今回の問題は、国労北陸地本の調査によって明らかになったもので、六月二九日付の毎日新聞によると、六月八日から松任工場で始まった七尾線、能登線を走るディーゼル車の点検、整備の補修作業において、当初十日までの三日間で行う予定であったものが、車体の腐食がひどいために作業が十一日まで延びてしまったことに対して現場の助役が「ていねいに仕事をしていたら予定の修理日数でできり上がらない。手抜きをしろ」と暴言を吐き、「手抜き」を強要したというのだ。この当局の暴言に対して作業していた人達は「余りにも傷みが激しい」ため、当局の「手抜き」強要を拒否し、通常通り作業を続行したのである。

「手抜き」は、日航機、余部の二の舞だ

「手抜き」強要を追及された現場責任者である工場長は「特に問題のある発言とは思わない。採算性の悪いローカル線列車の外観の修理を簡略化するのは民間会社としてやむを得ない」と、助役の暴言を戒めるどころか、逆に開き直り、「黒字」のためには運転保安や乗客の生命を一切無視する、というのだ。絶対に許すことはできない。

一九八五年八月の日航機墜落事故、昨年十二月の余部鉄橋事故などは、まさしく会社、当局の人減らし合理化により点検整備が完全にできなくなったことによってひきおこされたものである。

これを思うと、今回の西日本会社での当局の暴言は、ゆくゆく大事故をひきおこしかねないということを大いに物語っている。

われわれは、このように「黒字」のためには人命をも無視する「分割・民営化」体制を絶対に許すことはできない。粉砕するのみである。

いま、「新会社」では、「黒字のためならなんでもやれ」という風潮が大手を振ってまかり通っている。西日本会社の金沢支社松任工場において、列車の修理作業に際し、「もうからない路線の列車は手抜きをしろ」と現場の助役が指示していたことが明らかになった。（6・29毎日）「黒字」のためには運転保安や人命を一切無視しようというのだ。こんなことは絶対に許せない。こんな「分割・民営化」体制は粉砕しなければならない。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆

6月29日　毎日新聞

赤字路線に危険な指令

列車修理「手を抜け」

JR西日本の工場助役

石川県松任市八ツ矢町、JR西日本金沢支社松任工場（柳沢毅工場長）の現場監督の工場助役が、列車の修理作業に際し、部下らに「もうからない路線の列車は手抜きをしろ」と指示していたことが二十八日までの国労北陸地本（大泉哲委員長）の調べで明らかになった。「黒字」を至上命題とするJRの経営姿勢が背景にあるとみられ、同地本は「安全輸送に直結する車両整備現場での手抜き指示だけに見過ごせない」と問題視。民営移管後三カ月間で同支社管内のローカル線で起きた列車事故を洗い直すと、工場側に抗議することを決めた。

国労、事故再点検へ

同地本が問題にしているのは、今月、同工場で行われた七尾線（金沢―輪島）、能登線（穴水―蛸島）を走るディーゼル車一台の補修作業。三、四年に一度行われる車体やエンジンの検査で、八日から点検や整備を始め、十日午前中に修理を終える予定だった。しかし、車体の鉄骨や鉄板の腐食がひどくて修理に手間取り、予定が一日延びた。

十一日に社員三人が作業をしていたところ、現場監督の助役二人がきて「こんなにていねいに仕事をしていたら、予定の修理日数では仕上がらない。もうからない線の列車に手をかける必要はない。手抜きをしろ」と指示したという。社員らは「余りにも傷みが激しいから」と、通常通りの作業を続けたという。

同工場は、主に北陸地方の幹線、支線を走る車両約八百両の点検、整備を担当。しかし、分割・民営に伴う合理化で、要員が昨年四月の約四百五十人から、今年四月には約三百人に減員された。同地本は営業係数（百円の利益をあげるための経費）が悪い七尾線と能登線の列車について手抜きを強要されたもの、とみている。

これに対し、柳沢工場長は助役の手抜き指示を認めた上で、「特に問題のある発言とは思わない。車体の外板部分などは、エンジンやブレーキとは違い事故につながるものではなく、どの程度までやればいいかは現場責任者に任せている。採算性の悪いローカル線列車の外観の修理を簡略化するのは民間会社としてやむを得ない」と話している。

川村孝次郎・同地本書記長の話　どんな路線でも乗客の安全やサービスの基準は変わりない。列車を少しでも多く動かし、採算を上げようとするあまり、赤字ローカル線を差別するものだ。

ルポライターの鎌田慧さんの話　幹線とローカル線に整備面で差をつけるという発言は、分割・民営後、収益性に目を向けるあまり公共性を放棄する姿勢の表れだと思う。日航機事故が不十分なオーバーホールの結果だという教訓が生かされず、整備工場でもうけようという考え方が広がっているなら、恐ろしい。

不十分な整備や合理化が日航機事故、余部鉄橋事故をひきおこした。「手抜き指示の暴言許すな。